

スマイル&チャレンジ!みんなつながる南台

今できることを、それぞれの場所で

校長 角井 治朗

夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。例年と異なり短い夏休みではありましたが、それぞれの子どもたちにとって大切な時間になっていればと思います。

猛暑が続く夏でしたが、1年生のアサガオや3年生のホウセンカにはたくさんの花が咲き、4年生が育てているヒョウタンやツルレイシは校舎一面に広がり、花や実をつけ始めています。コロナ禍や夏の暑さをもものともせず、日一日とたくましく成長する様子に自然の力強さを感じます。そして学校は、年度当初の予期せぬ臨時休校が続いた後、分散登校、短縮授業を経て、7月からようやく給食が始まるなど、何もかもこれまで経験したことのない状況の中で学校生活が進んできました。次々と変化する状況は、子どもたちにとって大きなストレスではあると思いますが、それでも子どもたちなりに社会の状況、社会や学校で求められる新たな生活様式を理解し、適応する姿には、校庭の植物にも負けないたくましさを感じます。以前と比べると学校生活にも不自由さがありますが、それでも友達と学び、遊び、何気ない日常を共に過ごすことが、子どもたちの笑顔につながっているのではないかと思います。

一方で、新型コロナウイルス感染症が依然として広がりを見せる中、子どもたちの笑顔を最前線で支えてくださっている医療従事者の方々、あるいは、新型コロナウイルスに感染した方々等への差別や偏見が問題になっています。まだまだ未知の部分の多いウィルスに対して誰もが不安を感じており、その不安は時として、人への攻撃として現れます。そんな心の揺れは理解できるとしても、実際の攻撃、差別や偏見は決して許されるものではありません。日本赤十字社が配信している「ウィルスの次にやってくるもの」という動画※があります。その中に、次のような一文があります。短い言葉の中に、今こそ大事なことが込められています。

『恐怖は誰の心の中にもいる。だから励ましあおう。応援しあおう。
人は、団結すれば、恐怖よりも強く、賢い。
恐怖に振り回されず、正しく知り、正しく恐れて、
今日、わたしたちにできることを、それぞれの場所で。』

学校も、子どもたちの笑顔と日常をしっかりと守り、安全で安心な学習環境づくりに努めるとともに、子どもたちが正しい知識を身に付け、考え、判断し、行動する力を身に付けたり、思いやりの心をもったりすることができるように努力をしていきますので、引き続き、ご家庭のご協力をお願いいたします。

※日本赤十字社「ウィルスの次にやってくるもの」(<https://youtu.be/rbNuikVDrN4>)

※差別防止を呼びかけた文部科学大臣のメッセージが届いていますので、朝会で子どもたちに伝えま
す。保護者向けのメッセージも配布しますのでご覧ください